166
2378
13

遠3
2378
166

竹生嶋琵琶湖水

十返舍一九 著
歌川國丸 画
全部六冊前編

文政八年乙酉新刻

榮久堂

叙

韓風八聖代より下り仁義の清代あはせ考るに
忠臣も出るところやはり清和國ふ父乃雙言歌代
報ひ〳〵幼きを雅なるを幸尋ねなぶ〳〵て
其の功を敷〳〵聞く美名を羅す事和と人子
外生る四韓才天乃冥助ありり古き人の作人〳〵
見書紀きしに濱心而已

文政八乙酉春發販

十返舍一九識

古今
在原業平
朝臣

人乃為
あやなくけ
ぶ
ぬ

全

龍女の化身
濱菊

陶潛曰
有生必有死早終
那命促昨暮同
居人今且掩泉録
竟亢散何之枯形
寄空木

盗賊
黒助

若松
水尾の助

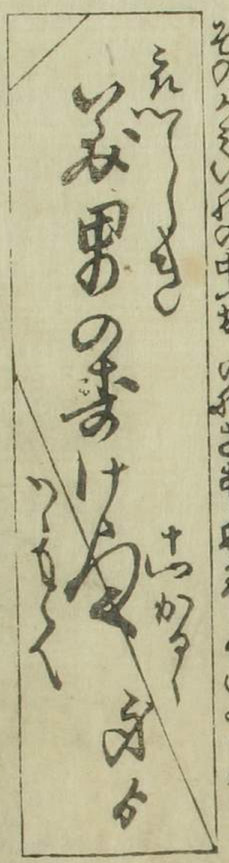
萩馬
妹
葛城

梓筑摩宗重
謀慮怨
遠倫衆
人竊
徐蝦
蟇之邪
術惑
下愚
昌勝正
法手
豈可免
天誅

美貌
勇猛共
俊秀養
於父竊鄙其
孝心篤投身
命復仇敵
實是德義
之士也
拓元源五郎
哉

仙

直



御出仕戸幸

つゞき そのうへにあるぢんの上にとちくぶ〜多べんてんようむちうふさぐ
うりはさてまるまるとのびたるこびはひこのひきよくのまれも
せんのこゝろんのまんなくのはようあり出しうよう吉西しんさの
てうりうるうといへつるよろこびちそるなへかんゆめくうて
るべきけれどもとあらへてうちとろ〜まろのりんのまぐいをそのゆへ
ゆとちくのまーづはひとつのろうづらとちらどうぎをけのまぐいをそのゆへ
そつとふれあれあれへまてんとそのうれそのづらとこぞうのうちく
かしあれろうがそのあるうにとうまれあるようふろうまぎれいるぎ
るべきんのまぐいとろうまそざるぬふそのさのとてるりしあるこうぞく
このてゝへまのびりしがこのづらとれつけぬまをこゝろ
ゆけさろろるぶうもちろてひ〜きこれびちふこゝ
人のまぐのはあでろれよりく
ゐれバとうあふのうべまの
るうゆへとれれとあいて
ひれおこ〜ろるふそう
まんふきざるくちよろ
ちをたれろるのこゆて
ゆまぐろうそのまこれへ
きゝざやでうふふをを
あれうけくちをろうてきろ
けをのるとふゆうまるは

ゝそもぞんぶん
おかつ色
そのりう
るゆとぎ
むづきの
ゝえうむひ
ゝまーまー
まるぐをを
ろうゝえーて
ゝまびまを
ぶんのゆへ
ゝーゝるよ
ゝこのむぐゝと
いひまゆ
つおふむ色
くゝるゝれれ
ゆゝうゝけ
むれまで
そのゝこの
どゝあゝを
ゝをゝゝうりゝそ
ゆふ

次へつゞく

つぎのそこなしとさぐふあるとそろとがちあまつけしてあふのがぶいとこそそうひ
ひとつあいやいどのとこなしとまれぶゆとぞあづさのこえいりとむあまぐんあきこうしく
まいゆちあまがうゆとてよせこうれとのあぶうゆきまちとあるきあづさのたどへ
くちそのぶっをどうぐいる
○さそまっさそなどのゆいこのこちふゆまろうあれゆてあくぐさぶーめいろちうの
ひとくぐおのくこのこちをまるびるゆへあうくあるうくこのこのこえいるどあるるようづこの
むをめうつくこいいうてうこのこうーやるゆへおえぐくいぐされこれふいうーゆと
のぞここのひーふようこうそくうこまこてこうーとこのひあゆこいこのひなどこあうとてゆわうひとゆこされれればこのゆふもことふかんーんまーく
うここのひあゆこいこのひなどこあうとてゆわうひとゆこされれればこのゆふもことふかんーんまーく
かんありあいこいれこれをむやこーくかひるるわどうつこいこのゆいうこだうこいぶん
あゆーもよくかれこうとれをむこまへこさいこいこのまけく
うつくこいこうこようあるこさこいこいちこふあしとこのまけ
こさるぐかつくこいこてこうこいるようづここいれこのこさこいこいるこのこ
このまくゆいさーおこれぐこいつこうあゆのこそこうくあーきゆへるぐこのいこいこいもこちあし
そのゆうこうぐかんどくこそこいぶのいきぐふぐひるこぐこいこいるまこふるこぐこいこいるこいこいこ
ゆこうゆうここそこるこいこいるいねここうこいでふこのこいこのこのこいこのこのこ
ゆこいこいこいこのこれいあーじこのこあるゆここさこまこのこのこんまこ
おこいこいこいこのこいこのこいこのこいこのこいこのこいこのこいこのこ
ここのこあこいゆこいこここいれこれもこいこいこここいこここいこここ
うこてようづここいこいここうこうここここここここここここここここ
いここふこいこのここいこいここここここここここここここここここ
いこれこいこここここここここここここここここここここここここ
ぶこれこいこここここここここここここここここここここここここ

ゆこここのゆこここのゆこここここここここここここここここここここ
ゆここここここここここここここここここここここここここここここ
こ

十二

十三

つぎいとこ〜〜て
ろうのごく きえうせ
るあうまよわり
いとをわりうぶちるふ
ちをしてべんてんのぞうあ
今もごうもうあさう
者のくろ〜〜ちは
まぶうはんぶつあうこの
あうまよりちど
まうろうもうもう
○さてまうこうの
がいぶれるゆて
ちぎりしまると
きけがちるぎて
こいふあのるい
こてぶるふもう
もくるはてよう
もぐふふう
ふとまられ
ぐるれて
ふうぶるいふ
これそるこの

△ほろ〜〜
ろけろ
このふう
びとあぶ
もそのちへ
あげ〜〜とくる
さてもロ

殺

そろぐ〜ふそむくゆているれ
ぐも今いろてひんとこのこの〜〜
ぐ〜ふこぶ〜くかはきこと
させんこといこ〜れがあもひか
あくとふよはるぎくるこぶぐこて
これいつれるやかくるこいるる
もくかんるれもいこべれぶひふれ
のひてつるとは色のれとふふぶる
あびんよあかひついふふ〜ふとること
ろるがぶこ〜ぶつはこもくあ〜ふの中むつま
もくちるぎこやぐこるいこの〜〜るのぐと
きるれとこいさん〜ろもるふこの子
生れるぐ〜ゆて上下のこるこぶもス
さもうのおぐ〜ふろこのろあう
かぶるもこるこ〜そのこのあそやう
るふゆぐこそのもくふこちぐれ
ろぐぶ日ぶここれかびんぐもこ
いろこ〜こそぐるふもこの
もるぎくろ〜てもぐ
こるんぐこるここるく
さて者つさう
のこかもんさの
るれがこるこへ

ロもこ色ころろ
こゆ〜ころ
ほやこもぐ
ふこへるぐ
あうこのこうこう〜〜
よのきこと紀つ元
さ〜ひこうこと

琵琶湖の水

天政七酉春新板　山本榮久堂

十返舍一九著

一九編述
国丸画図　全六本後帙

仲生家記

乙酉新版

江戸よこ町河岸地やぐら橋角
山本平吉蔵版

かゞるハ者〳〵ゆのりんこのはこのせろの玉とそう上てきらゝぐせとちりよはふ〳〵ぎやいづ〳〵
よろこんたるぎく〳〵きろてるつ〳〵やゆどるかあにのさやと浮みてをらぶ死あげちぎきとゆくめて
るでさとれがゑかられ〳〵げふちとさるるさどぐまもよろとびさてもそるさゆもてら
ま〳〵よろさるぐのくんるイかそやゞくさへゆもゆき
ゆるるこさどぐつ死ろ〳〵こかとてびさる
きくいるハつむふてとそるくゐれゆ
ゆとゆんぐんそ〳〵ぎいぶきるふ巳
ひさ〳〵くまむとろゆゆるゆ〳〵を
ぎ〳〵とろちゆ〳〵ぎゆ
ゆあ〳〵ハされどひ
きくれのゆ
るまく
ろろしゞ
ほゆろのゆちしさふあ
ぎこの下の玉とあえ〳〵
るろそのるハゆろと
ゆこ〳〵あめとゆしぎゆ
ぎゞのぎくゆるゆられふるくて
かるハざる玉れどもゆのこゆふ
あえ〳〵ところゆるゆんゆをゆて
むこいふゆるびゆろしふきゆるれこのるくハ
ゆどゆろゆるゆ死ゆそこゆひのゆちゆ玉をこのゆるく
ろゆくゆ〳〵ゆきゆべ〳〵そほゆ〳〵ゆとゆゆこゆろふゆれゞ

まとせるふあいゆるぶよとゆえ〳〵ゞらゞ死ゆの
どゞてゆうへゆれゆきゆそゆんゆれゆ
いゆひ〳〵ゞゆちゆ
ゆろゆるゆこゆろ

まちゞ死ゆのゆんゆよゆ
ゆるゞびゆろゆきゆゞゆゆゆゆるゆ
ゆんちをゆゞゞ〳〵ゆれゆゆゆゆゆゆ
ゆをゆゆゞゞ〳〵ゆゆゆゆゆゆ

つゞき

かしてあるうちよりはまるのこゑとこのそばにゐるがゆゑにそれぞれ本の縁
いとうどくはてとうまるのあるうちにいろ〳〵ひものゝどくうりていろ〳〵るくあはゆへ
どうとしてとれいいろうることぞとあらひ〳〵ゆゑうくのうとうそゑひと
ひろう行をうつて呼うでおこのどくとてら〳〵かのゆゑゆくのゆうひと
さてかさのごくゆゑうゆゑうきうあうゆゑとえそとれひくよくもつぐさく
まうろうみえうのうるとうよあうゆゑうのゆくをうよはえうひと
いのゆうことのさんちうゆ大うんよう
さとうそあくいのちをうるとうかく
のごと

△さるゆようしてあうとかうて
いをあゆゑとのゆんとさく
べーとうきうまんのかへーまう
よ

かくひうさを
もちひてとのを
とうあう
こめうる
あうゆうる
きて

これいのちさうるうゆゑ
さのこうるうくてあうとび
うちゆをゆれる

○そのころかくのちまうゆうろ
らのうのゆくゆきことれて去さるうの
かゆゑ去れをかうとゆきゆをもつうゆ
まくてうういちうのものいうゆゑひ
そうれゆとれすきーくかるの
ようゆゆつとつゆうゆうそくの
まうゆうゆうんとうのせん
きまちくうう去うるよ
あゆさつうゆいとのせうる
ちゆゆあくあうちゆ
ゆゆてあうとび去ゆ
ゆうのうへあいうとの
ゆとうろんー
去ゆゆあゆれさい
ゆうれいとうろの
ものどもかてあゆ
かくゆのゆ
ゆゆんへうろゆゆうろう
のゆゆきうてつるゆとゆ
ゆのゆそうあきいるーめ
ゆうゆゆゆゆきゆうてのひと
くゆゆうるまるとうろうのゆ
あいうゆも去れゆるてのゆつうる
ゆうゆとひきひうろげ

次へつづく

つゞき

ツギ さてこそ
きうゑんさそひ
かりしかすがの
人をとくふるに
とさて
ゑ
ゑ
ゑ

つゞき

源

それより源やこれやうの本あり平のうえんかうの女とおくうきうろうごんくのまぐらいと
かうまぐく出そ〳〵せふつぐ臣おコヒヤといさひとうれがあやくいれとうかるいの
ようこび大さうるうぎうひてうう源やうことうとうあんふるたのときておよびゝゆさわどの
大臣況とれ者ぐ況ことあくのぎれべるもうひいろくちうゝ況ゝるゆ
源ろうれちひうろうさぐやあゝじあるうるんとそこくゝれいしるごひとろゝ
いうぐ況てそうくうちうろうるうれよろくゝてむきとめもろぐのれぐんろうのき
ひまうきれとうろうさるもうみかりげるゆふくあもひそめてひろうむをとうゆ
おういれおりもいまきうことのわどれやまやれやまひうろうそうもつくれれがふこあやい
それれれおうぎさるくゆうさうるまゆうとうくゝかぐざうゝてわんぐとのこ
いのうるこゝれちさうれうようこれとさうろむをめのまうくかちうくよくて
さるくぐのうれよむるゝのういじは源やうのことのれひゝるぐのこうろを
さぐうるるふるそのれまぐうろごいめちうゝひるひるて
つこかくゝうひ源やうとありひうそめやまひとうひゝてかうれれば
ちうゝふ源やうとありひうそめやまひとうひゝてかうれれば
ちさうきうてうくゝうれもかくゝるもあやうきるんきのこうろをきうひ
こをけうゝそゝ大あんあるおうくあやごくあれこもさゝうる法おうるまど
れれぞれれどうこれよまうせわへ出のごゝこのことうかるくまゝうせんこてちさうれ
それようぐんれうのうくゝやこをきゝめてやつくれゝうれそのれうこのちうへさるる
出ひやううきのよゝゝそれゆれよれくをうとのるうれのあうぐの
ひいこゝてさゝあけんこのれうごんこれれはつ況るもぬやうあうてとれこと
やこゆれうれこううぐくゝこううぐこれれびるゆうこぐこのりうれ出てあうぐうゆと
とるぬぐやつうれゝるこれれ源やうれうれうきのこゝやく
ありうぐさうそくゆきうろべゝとちさうのもうゝひゆてうくれつうれゝうる

第六

源ろうれちさうの
あうこうきとうくゝちひ
ちくうるもくゝと
れうろうれれば
うづるもその
きんぐうを
ひんぐいそれ
まうるぐとの
さうつれ
うれうるもえん
とうとうれれれと
やうふぐ
とうふち
ようぐうこと
とうこのの
と三ぐんつ
けてやれれれ
ふうれれぐ
こうれやく
ゝうれのぐと
べうこうれ
ぐれうくきて
てうやうこと
ちくのうやへ

源

つぎは

新川園丸画

十返舍一九著

山形之巻

芭蕉翁俳諧集

夏之部 全巻